

体験クルーズ乗船記

クルーズの魅力とクルーズ振興に向けて

大阪大学法学部国際公共政策学科赤井伸郎ゼミ

藤原 裕樹

寺田 日菜

はじめに

今回私たちは、全国クルーズ活性化会議との共同企画である第4期スマート・クルーズ・アカデミー[※]の参加者として、2014年5月6日から、5月13日までの8日間、ボイジャー・オブ・ザ・シーズ（以下ボイジャーと記述）に乗船してきました。参加者は、大阪大学の赤井ゼミ生所属の学生、兵庫県立大学、甲南大学の学生でした。アカデミーでの講師は、大阪大学を始め、クルーズに参加している各大学の教員が務められました。クルーズ中はアジアをテーマとした講義・グループディスカッションを行うと共に、日本の各地方港がクルーズ船誘致に向けて実施している取組について学び、これからのクルーズ振興について考えました。

乗船前のクルーズに対するイメージ

私たちはクルーズ船に乗るのは初めてでした。そもそも日本でクルーズ船に乗れるというイメージもあまりありませんでしたし、乗船費用も高く、一部の高所得層の方のためのものというイメージが強かったです。ですので、クルーズは大学生の自分には縁のないものだと考えていましたし、このプログラムを知らなければクルーズに乗ろうとは考えもしなかったと思います。

一方でこのプログラムに参加するにあたり、クルーズについて調べていくと、自分が思っていたほどクルーズは高価ではないこと、スポーツコートやプール、ショーなどのアクティビティが多く用意されており、若者も十分に楽しめる内容であることがわかってきました。寄港地も行ってみたいと思うところばかりで、クルーズに行くことが決まってからは、船で過ごす時間、寄港地で観光する時間がともにも楽しみでした。

クルーズに乗ってみて：クルーズの魅力

(1) 気軽に楽しめる旅行手段

実際にクルーズ船に乗ってみて、まず実感したことは、思ったよりも簡単に、気軽に楽しめる旅行手段であるということでした。

船内は基本的に英語が使われますが、言語の違い



船内での様子

に困ることはほとんどありませんでした。船内には多くの日本人スタッフがいるのですぐ対応してもらえますし、レストランのメニューや船内の表示、船内資料のほとんどには日本語訳が書かれています。また、ボイジャーがカジュアルな客船ということもあって、ディナー時やフォーマルナイトにはドレスコードが定められていますが厳しくはなく、基本的に自由な服装で過ごすことができました。

船内に寝泊りできる利便性もクルーズの魅力のひとつです。他の移動手段を使う旅行では、宿泊先や食事する場所を探さなければなりません。クルーズ旅行ではそれらが全て集約されています。また、船内に宿泊するため、荷物の移動をすることなく、複数の観光地を楽しむことができました。

さらに、ボイジャーでは手続きを円滑に行うため、様々な工夫がなされていました。例えば、乗船時に『シーパスカード』というものが乗船客一人ひとりに配布されます。このカードは身分証明書、クレジットカード、客室鍵の機能を併せ持っており、船内サービスの支払いや乗船・下船の手続きをこのカード一枚で行うことができ非常に便利でした。他にも、客室には毎日『コンパス』という簡単な情報誌が配られました。コンパスにはその日に船内で行われるイベントや食事、施設の詳細が書かれているた

め、たくさんのイベントが行われていても把握がしやすくなっていました。

(2) 船上での様々なエンターテイメント

クルーズ船に乗って二つ目に実感したことは、様々なエンターテインメントを一度に楽しめるということでした。クルーズ船内には非常にたくさんの施設やイベントがあり、数日間乗っていても飽きることがありませんでした。

船内では、ほぼ毎晩ショーが開催されました。ショーの内容は、ブロードウェイスタイルのショーやアイススケートショー、ピアノ弾き語りのライブなど、多岐にわたります。これほどたくさんのショーを一度に楽しめる旅行は他にないと思えました。どのショーもクオリティが高く、ショーが行なわれるシアターやスケートリンクは船の中と思えないほど大きいので、迫力がありました。また、ショーの他にも、4層吹き抜けの大通りにおいてパレードや乗船客が参加できるダンスパーティーが行われ、大通りに面した客室では窓から見ることもできました。

スポーツ施設は、スケートリンクやプール、ランニングコース、パターゴルフ場、バスケットボール、ロッククライミングなど、充実していました。特に、アイススケートやロッククライミングは普段なかなか経験しないようなスポーツなので、貴重な体験になりました。スポーツ施設は、施設の利用だけでなく、専用の靴やヘルメット等の器具も全て無料で借りることができるため気軽に楽しむことができました。また、屋外にプールが3つ、ジャグジーが6基あり、乗船客が多くても十分に遊べました。

食事においても、レストランの数が豊富で様々なスタイルを楽しみました。朝食は基本的にビュッフェスタイル、昼食はダイニングルームやカフェで取り、夕食はダイニングルームで、毎晩フルコースで普段食べることのないような豪快なステーキやサーモンを食べることができました。指定のビュッフェやダイニングルームでの食事はクルーズ乗船料金に含まれていますが、それ以外にも様々なスタイルのレストランやバーが設置されており、自由に利用することができます。

そして、クルーズ旅行では他の旅行手段と違い、複数の観光地を満喫することができました。これはクルーズ旅行の最大の特徴でもあります。今回私たちは、沖縄、別府、長崎、台湾で下船しました。それぞれ滞在時間は短いものの、全く違う雰囲気を一度に味わうことができました。滞在時間が少ないのは残念ですが、逆に「また来たい」と思わせられました。

クルーズ振興に向けて

最後に、クルーズの振興に向けて今後改善していくべき点として、寄港地の対応の改善、若者へのPR・従来のイメージの払拭の2点を考えました。

まず寄港地の対応については、交通機関の整備が重要であると考えました。今回のクルーズでは、すべての寄港地において朝もしくは昼に到着し、夜には出港というスケジュールだったため、滞在時間は限られていました。寄港地によっては臨時のシャトルバスなどが整備されており、とても便利でしたが、一方でそういった整備が十分でないと出港までに回れる観光スポットがかなり限られてしまいます。オプションツアーもありますが、学生など若い世代には、高価なツアーへの参加は敷居が高いと思います。オプションツアーがクルーズ会社の収益源になっているという話も聞きましたが、クルーズをより幅広い客層に広げていくためには、その課題を乗り越え、クルーズを誘致する寄港地が交通機関の整備等の対応を充実させていくことが重要であると感じました。そうすれば乗船客に十分に地域を観光してもらうことができ、その地域の活性化につながると思います。そして同時に、乗船客のクルーズの旅もますます充実したものになり、クルーズ振興にもつながるのではないかと考えました。

次に、若者へのPR・従来のイメージの払拭です。今回同じクルーズに参加していた人たちの多くは、私たちがイメージしていたとおり年配の方たちでした。しかし、今回クルーズに参加してみて、価格面でも内容面でもクルーズは若者も十分に楽しめるものであると感じました。私たち自身、乗船前のクルーズに対する敷居の高いイメージはなくなり、またぜひクルーズに参加したいと思いました。今後、若者などより広い客層に向けてのアプローチを強化していき、従来の高級なイメージを払拭し、クルーズがカジュアルな旅行手段であること、気軽に楽しめるものであるという認識を広めることができれば、より幅広い世代がクルーズに参加するようになり、ますます日本のクルーズ人口は増えていくだろうと思いました。

注) スマート・クルーズ・アカデミー：船上でしか味わえない、見渡す限り何も無く、それぞれが集中してやりたいことに打ち込める洋上という素晴らしい環境で、学生の論理的思考向上を促すことを目的としたアカデミー。国際関係や地域発展についての社会課題を議論し、船内・寄港地にて国際・現場感覚のより一段の向上を図る訓練の場。加えて、受講生がクルーズを体験し、若い世代からの視点で、将来のクルーズマーケットを熟成するための場とする。